

## 黙示録6章「災いの始まり」

### 1A 四頭の馬 1-8

1B 反キリスト 1-2

2B 戦争 3-4

3B 価格急騰 5-6

4B 四分の一の死 7-8

### 2A 小羊の怒り 9-17

1B 天における殉教者 9-11

2B 地における不信者 12-17

1C 大地震 12-14

2C 隠れることを望む者たち 15-17

## 本文

黙示録6章を読んでいきます。私たちは、この後に起こる事として主がヨハネに与えられた幻を見えています。初め、4章と5章は天の情景でした。父なる神が御座におられて、万物の支配者として栄光を受けておられました。そしてこの方が世界を贖うための権利書を手に持っておられました。七つの封印のある巻き物です。その封印を解くのにふさわしい者がいました。私たちの罪のために死なれた小羊、そして甦られた方です。そして、天において新しい歌を、教会が歌っていました。そして無数の御使いも礼拝を捧げ、被造物全体が賛美を捧げました。そして礼拝は、四つの生き物と24人の長老に戻ります。

そしてついに、七つの封印を小羊が解かれます。悪魔が支配している世界に対して、その罪と不法に対して神の裁きを下されます。そして最後には、悪魔を縛って、ご自身が御国を治めることとなりますが、それは20章を待たないといけません。私たちは18章まで続く、地上に対する神の怒りの現れの始まりの部分を読みます。

### 1A 四頭の馬 1-8

#### 1B 反キリスト 1-2

1 また、私は見た。小羊が七つの封印の一つを解いたとき、四つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい。」と言うのを私は聞いた。2 私は見た。見よ。白い馬であった。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。

ヨハネは、また新たに幻を見ました。「また、私は見た。」と言っています。そして、封印を小羊が解いておられます。黙示録では、イエス様が「小羊」と繰り返し呼ばれていきます。それは、この

方が十字架に付けられて、私たちの罪の供え物となってくださった方であることを思い出すためです。これから災いを、イエス様が父なる神の権威によって下されますが、それは究極の罪の赦し、神が最後に全ての罪を赦す備えをしてくださったのに、その福音を拒んだことによる怒りの現れだからです。

これから見る幻は、四頭の馬です。第一が白、第二が赤、第三が黒、そして第四が青ざめた馬です。ゼカリヤは八つの幻を見ましたが、それはすべてエルサレムに関することでした。エルサレムが諸国の民によって踏み荒らされていたのですが、主はエルサレムを回復するという約束をされました。そこで諸国に対するさばきを主は宣言されますが、第一の幻では、赤い馬に乗った人と、その他、赤、栗毛、白い馬がその赤い馬の後ろについています。主はこう言われました。「安逸をむさぼっている諸国の民に対しては大いに怒る。(1:15)」神に怒りの現われとして、さばきを地上に下すのですが、そのさばきをもたらす存在が馬です。敵に対して戦う姿を現わしています。6章において、戦車によってこれら四頭の馬が四方に出てゆき、戦いを引き起こし、神の怒りを全うする姿が出て来ます。「それらは北の地で、わたしの怒りを静める。(6:8)」とあります。地上に戦いをもたらし、それによってご自分の正しい裁きを全うされるのです。

ここ黙示録 6 章の「白い馬」はだれを現わしているのでしょうか？白い馬の乗った方は、黙示録 19 章にて、イエスさまが白い馬に乗られて、地上の諸国の軍隊と戦われる場面が出て来ます。19 章 11-16 節まで読みます。「また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実。」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があつて、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。その方は血に染まった衣を着ていて、その名は「神のことば」と呼ばれた。天にある軍勢はまっ白な、きよい麻布を着て、白い馬に乗って彼につき従った。この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。その着物にも、ももにも、「王の王、主の主。」という名が書かれていた。」

ですから、6 章で白い馬に乗った人はイエス・キリストであるか？という違いがあります。第一に、弓を持っていますが、「矢」を持っていません。しかし、イエス様は口から出る鋭い剣を持っておられます。第二に、冠を一つかむっていますが、イエスさまは多くの王冠が与えられています。しかもこちらの冠は、オリンピックなどの競争で優勝した時に受け取る意味の冠であり、イエスさまがかぶっていた「王冠」ではありません。第三に、「勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った」とありますが、小羊イエスは、既に勝利して神の右の座におられます。第四に、これが最も大切ですが、イエス様が再臨されたら地上に平和が支配します。しかし、ここでは白い馬がやって来たことによって、4 節以降の地上は戦争と死です。

つまりこの人物は、キリストに似て非なる者です。キリストに似たような特徴を持っていながら、実は反対のを行なう人物です。反キリストです。テサロニケ人への手紙第二 2 章に詳しく書いてあります。「2:3-12 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。私がまだあなたがたのところにいたとき、これらのことをよく話しておいたのを思い出しませんか。あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現われるようにと、いま引き止めているものがあるのです。不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。その時になると、不法の人が現われますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。」

彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮に座をもうけ、自分こそ神であると宣言します(4)。不法の人の到来は、サタンの働きによるもので、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれる、とあります(10)。人々は、救われるための真理への愛を受け入れなかったもので、神が、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれる、とあります(11)。不法の秘密はすでに働いているのですが、引き止めるものがあり、それによって不法の人は現われません。けれども、引き止める者が取り除かれたら、不法の人が現われるのですが(6-8)、今ここで、引き止める教会が地上から取り去られているので、不法の人の到来を持って、主の日が始まったところなのです。

彼は平和を約束しながら、破壊をもたらす人物です(1テサロニケ 5:3)。私たちは今、ダニエル書を読んでいます。イエス様がオリーブ山で予告された、「荒らす憎むべき者」の存在を浮き彫りにします。使徒ヨハネは第一の手紙で彼のことを「反キリスト」と呼びました(1ヨハネ 2:18)。2章には出て来ませんでしたが、人の像の足の指の部分において現れます。ダニエル書を開いてください。「7:8 私がその角を注意して見ていると、その間から、もう一本の小さな角が出て来たが、その角のために、初めの角のうち三本が引き抜かれた。よく見ると、この角には、人間の目のような目があり、大きなことを語る口があった。」第四の獣ですが、この獣は十本の角があります。解き明かしを御使いが行ないませんが、十人の王によって支配する世界から、その間から、「小さな角」として現われます。その角は大言壮語を語る口が与えられます。6章4節に、「勝利の上にさらに勝利」とありますが、彼は、初めは目立たない小さな政治指導者なのですが、次第に勢力を持ち、

他の勢力をどんどん狡猾によって倒していき、ついに世界制覇を果たします。彼は弓を持っていて矢を持っていないようですが、天才的政治手腕によってその支配力を強めていくと思われます。

そして反キリストは、ユダヤ人とその神殿を破壊します。8章の終わりに書かれています。「8:23-25 彼らの治世の終わりに、彼らのそむきが窮まるとき、横柄で狡猾なひとりの王が立つ。彼の力は強くなるが、彼自身の力によるのではない。彼は、あきれ果てるような破壊を行ない、事をなして成功し、有力者たちと聖徒の民を滅ぼす。彼は悪巧みによって欺きをその手で成功させ、心は高ぶり、不意に多くの人を滅ぼし、君の君に向かって立ち上がる。しかし、人手によらずに、彼は碎かれる。」

そして、9章に入りますと、ダニエルに対して聖なる民、ユダヤ人と、エルサレムの神殿について七十週が定められているとガブリエルはダニエルに教えました。神の贖いの完成のために、七十週、一週が七年間なので 490 年が定められています。「9:24-27 あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現われる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

7 週と 62 週の後、「油そそがれた者は断たれ」とあります。これがキリストです。ネヘミヤ記に、エルサレムの再建の命令が出される記録がありますが、そこから 483 年を数えると大体、紀元後 30 年ぐらいになります。その時にキリストが確かに十字架に付けられ、断たれました。それからの話がここにあります。「やがて来たるべき君主」というのが、荒らす憎むべき者です。ダニエル 7 章にあるように、ローマ後の世界から出て来ます。その民ですから、ローマのことです。紀元後 70 年に、ローマ総督ティトゥスがエルサレムを破壊しました。それから、「その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。」とありますが、これがイエス様がオリーブ山で語られた、異邦人の時です。エルサレムが軍隊によって踏み荒らされる、異邦人によって踏み荒らされ、戦いが続いてきました。しかし、それを 27 節で終わらせる人物が出て来ます。それが反キリスト、荒らす憎むべき者です。多くの者、つまりユダヤ人が神殿に関することで彼と契約を結びます。その最後の七年間の後半部分で彼はその契約を破り、いけにえとささげ物をやめさせます。そして、荒らす憎むべき者が正体を現し、自らを神として聖所の中に入り、イエス様がオリーブ山で言われたように、「そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。(マタイ 24:21)」となるのです。

ですから、いま白い馬が出て来たのは、反キリストの現れであり、最後の一週、七年間の始まりであると言えます。平和の使者を装い、外交的手段で権力を持ちますが、その結果は、実際は戦争が起こるというシナリオであります。

## 2B 戦争 3-4

3 小羊が第二の封印を解いたとき、私は、第二の生き物が、「来なさい。」と言うのを聞いた。4 すると、別の、火のように赤い馬が出て来た。これに乗っている者は、地上から平和を奪い取ることが許された。人々が、互いに殺し合うようになるためであった。また、彼に大きな剣が与えられた。

第二の封印を小羊が解かれました。すると、四つの生き物のうちの二つ目が、「来なさい」と叫んでいます。「火のように赤い馬」とあります。これは戦争の火であり、殺し合いの流血の色です。同じような火のような赤色が出てくるところがありますが、12章3節に、「大きな赤い竜」がいます。ここは、英語では「大きな、火のような赤い竜」となっています。戦争や殺戮が無造作に行なわれていくその背後には、悪魔が働いています。そして、「地上から平和を奪い取ることが許された」とありますが、平和であることは正常ではなく、むしろ神の憐れみで敢えて与えられている賜物です。多くの方は、これが当然であると思い込んでいます。日本は平和ボケという言葉が使われている通りです。「1テサロニケ 5:3 人々が、『平和だ。安全だ。』と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。」

## 3B 価格急騰 5-6

5 小羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が、「来なさい。」と言うのを聞いた。私は見た。見よ。黒い馬であった。これに乗っている者は量りを手に持っていた。6 すると私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の間で、こう言うのを聞いた。「小麦一拵は一デナリ。大麦三拵も一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」

第三の封印をイエスさまが解くと、「黒い馬」が出てきました。「黒い馬」の黒色は、哀歌 4 章 8-9 節によると、食べるものがなく痩せこけて、栄養失調になっている顔であることが分かります。こう書いてあります。「しかし、彼らの顔は、すすよりも黒くなり、道ばたでも見分けがつかない。彼らの皮膚は干からびて骨につき、かわいて枯れ木のようになった。剣で殺される者は、餓え死にする者よりも、しあわせであった。彼らは、畑の実りがないので、やせ衰えて死んで行く。」そして、この「小麦一拵は一デナリ」云々というのは、何なのでしょう？一デナリは、当時のローマの通貨であり、一日分の労賃に値する額です。一拵は約1リットルです。つまり、小麦が一リットル当たり1万円、大麦が三リットル当たり1万円、という値段になっているということです。一言でいえば「物価高騰」です。第一の封印が反キリストであり、反キリストが現われたから、第二の封印の戦争が起こりました。そして戦争が起こったから、第三の封印で物価高騰が起こっているのです。戦争が起これば経済が混乱しますから、人々が困窮していきます。

けれども、「オリーブ油とぶどう酒」は害を与えるなどあります。つまり戦争によって、日常の食品は物価高騰するのですが、これらのものは守られるということです。つまり、一般人は飢えに苦しみますが、一部の者たちが腹を満たしている姿をここに見るのです。しかし、この後にどんどん、そうした余剰物も取られていくようになります。

#### 4B 四分の一の死 7-8

7 小羊が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物の声が、「来なさい。」と言うのを聞いた。  
8 私は見た。見よ。青ざめた馬であった。これに乗っている者の名は死といい、そのあとにはハデスがつき従った。彼らに地上の四分の一を剣とききんと死病と地上の獣によって殺す権威が与えられた。

第四の封印は、「青ざめた馬」です。この色は、死に顔の色です。その乗っている者の名は死であり、そして「ハデス」です。ハデスは、死者が最終的な審判を受けるために待っている場所であり、「監獄」とも言えます。死んでいく人々が、ハデスに送られます。そして 19 章において、最後の審判で死とハデスが吐き出して、これらの死者を甦らせるとあります。

青ざめた馬によって「四分の一」の人が死にます。現在、世界総人口は約 73 億人ですから、今、主の日が始まれば、約 18 億人が死ぬことになります。実に恐ろしいことです。死因は、初めに「剣」です。赤い馬の戦争から死ぬ人々です。そして「ききん」です。経済不安に加え、ききんがやって来て、人々がどんどん飢え死にします。さらに「死病」です。食糧不足になると体の免疫も減り、死病が増えるでしょう。また今でも、エボラウィルスなど、死に至らせる疫病がありますが、そういったものも含まれるでしょう。そして、「地上の獣」です。戦争によって死体が転がります。それを獣が食べていくことでしょう。そして、一度、人体の味をあじわった獣は、生きた者たちにも襲いかかることでしょう。このようにして、四重の苦しみにによって神の裁きの激しさが現れています。

#### 2A 小羊の怒り 9-17

##### 1B 天における殉教者 9-11

9 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」11 すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい。」と言い渡された。

教会が天に引き上げられ、それから大患難が地上に襲うのですが、その患難時代の時にイエスを主として受け入れる人々が現われ出ます。詳しくは 7 章に書かれていますが、ユダヤ人の中

でイエスを信じる者たちが現われ、また世界中で異邦人もイエスを信じていきます。しかし、この時代における信仰は、即、死を意味します。イエス様がこのように言われました。「マタイ 24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。」

そこで彼らが死ぬのですが、その彼は「祭壇」の下にいます。この祭壇は、幕屋にある青銅の祭壇のことです。そこで動物のいけにえがバーベキューのように火で焼かれるのですが、「青銅」は神のさばきを表しています。今、彼らが祭壇の下にいるのは、神のさばきを地上に下すよう求めているからです。テサロニケ人への手紙第2章において、クリスチャンに苦しみを与える者たちに、神の報復があることを学びました。今、信仰のゆえに苦境にあっても、主が戻ってこられる時、福音の真理に従わない者たちは、彼らを与えた苦しみによって苦しみを受けることが約束されています。今、祭壇の下にいる聖徒たちは、主の日における、そのような神の報復を待っているのです。公正なさばきを行なってください。このまま、悪がはびこらないようにしてください、と頼み、願っています。もちろん、これは復讐心ではありません。むしろ、聖なる神、真実な神が正しい裁きをしてくださいという訴えであります。

そこで主は彼らに「白い衣」を与えます。これは救いを表し、清められていること、正しくされていることを示しています。つまり、彼らは殺されたのですが、救いにあずかって天の中に入ります。そして、「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで」と言われます。彼らは、殉教の初穂的な存在です。これからまだ多くの信者が殉教します。彼らが死んでから、わたしは必ずさばきを下す。だから、もう少し待っていなさい、とされています。

そして、「もうしばらくの間、休んでいなさい」と主は言われます。これまで苦しみ、痛んできましたが、天国においてゆっくり休んでいなさい、と命じておられます。神の国が立てられるとき、教会も、また患難時代にイエスを信じた聖徒たちも、キリストとともに統治をします。患難時代に殉教する聖徒たちは、キリストが再臨された後によみがえります。それまでは、復活していませんが、白い衣を来た状態で休んで、待っているのです。このように、天において彼らは休みを得ることができます。これまで信仰によって戦ってきたのですが、休息場所は天国にあるのです。このことは、もちろん教会であるクリスチャンたちも同じです。「この安息にはいるよう力を尽くして努め」なさい、とヘブル書には書いてあります(4:10)。

## 2B 地における不信者 12-17

### 1C 大地震 12-14

12 私は見た。小羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。そして、太陽は毛の荒布のように黒くなり、月の全面が血ようになった。13 そして天の星が地上に落ちた。それは、いち

じくが、大風に揺られて、青い実を振り落とすようであった。14 天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。

第六の封印は、大地震と、それにとまなう天変地異です。これから第七の封印の後に七つのラツパにおいても、第六のラツパにおいて地震が起こり、第七のラツパが吹き鳴り、その後の七つの鉢においても、最後の鉢において大地震が起こり、天変地異があります。天変地異については、旧約聖書の中に数多く預言されています。例えば、イザヤ13章10-12節にこう書いてあります。「天の星、天のオリオン座は光を放たず、太陽は日の出から暗く、月も光を放たない。わたしは、その悪のために世を罰し、その罪のために悪者を罰する。不遜な者の誇りをやめさせ、横暴な者の高ぶりを低くする。わたしは、人間を純金よりもまれにし、人をオフィルの金よりも少なくする。」そして、ペテロがペンテコステの時に引用したヨエルの預言にはこう書いてあります。「わたしは天と地に、不思議なしるしを現わす。血と火と煙の柱である。主の大いなる恐るべき日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。(2:30-31)」このように、太陽が暗くなり、月が真っ赤になることが主の日に起こることとして預言されていました。

そして隕石が落ちてきます。いちじくの実が強風でふりおとされるように落ちてきます。イザヤは、「その(天の)万象は、枯れ落ちる。ぶどうの木から葉が枯れ落ちるように。いちじくの木から葉が枯れ落ちるように。(34:4)」と言いました。そして、天が消えてなくなるようになり、また全ての地が移動してしまいます。

### 2C 隠れることを望む者たち 15-17

15 地上の王、高官、千人隊長、金持ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が、ほら穴と山の岩間に隠れ、16 山や岩に向かってこう言った。「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りから、私たちをかくまってくれ。17 御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

「地上の王」と「奴隷」がともに天変地異の被害を受けていることに注目してください。この大きな災いに対して、地位の高い人、低い人の差別はないのです。どのような人も、神の怒りから免れることはできません。自分に財産があるから大丈夫だ、自分は権力があるから大丈夫だと思っている者たちも、主の前ではみな裸なのです。自分を守るものはないのです。

彼らは気づいています。この災いが、父なる神と小羊イエスからのものであることを知っています。これが聖書に数多く預言されていた、「御怒りの大いなる日」であることを知っていました。神が、人間の不正と悪をさばかれるために、定められた日です。「小羊の怒り」ともあります。イエスさまは、小羊のように、犠牲のいけにえとして、十字架上で死なれました。主を信じる者は、罪が赦され、イエスさまが流された血によって、罪がきよめられます。けれどもこの福音を拒み、主が



流された血をないがしろにする者に対しては、容赦ないさばきが待っているのです。「ヘブル 10:29-31 まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者は、どんなに重い処罰に値するか、考えてみなさい。私たちは、「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする。」、また、「主がその民をさばかれる。」と言われる方を知っています。生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです。」

しかし、「イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも、あなたの家族も救われます。」という聖書の言葉があります。私たちは学びました、「神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。(1テサロニケ 5:9)」そしてローマ 5 章 9 節には、「ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。」とあります。救われる道は備えられています。御名を信じ、キリストのうちにいるなら、すでに救いが約束されているのです。